笑顔と語らい、元気あふれる町づくり

平成二十三年 三月定例議会

町長施政方針（抜粋）…その一

平成二十三年第一回奥出雲町議会定例会の開会にあたり、井上町長が施政方針演説を行いました。ここでは、内容を抜粋してお知らせします。

世界同時不況が長期化する中、政府はこれまで様々な金融・経済対策を策定したほか、昨年十月には「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」を閣議決定し、そのための補正予算が十一月末に国会で成立しました。

本町ではこうした政府の動向を受け、今年一月の臨時議会に平成二十二年度一般会計補正予算として、五億五千万円余を予算措置しました。

町政における当面の最重要課題は、景気回復と雇用確保を図り、町民の皆様の生活を守ることと考えており、継続的な対策を講じます。

◆平成二十三年度予算案

本町の当初予算においては、生活インフラ整備、雇用対策など当面する様々な課題に対応するとともに、現在の経済情勢に鑑み、景気対策に資する事業に対し重点的に予算配分しています。

当初予算の総額は百四十六億九千万円となり（対前年比二・八％の増）、国の経済対策に呼応した経済・雇用対策を盛り込んだ今年度予算のうち、小中学校の改修・改築事業、きめ細かな臨時交付金事業など約十億六千五百万円は来年度へ繰り越すこととしています。実質的には百五十七億五千五百万円の予算として、切れ目のない経済対策の執行に努めます。

◆総合計画

総合計画審議会からの答申を受け、今定例議会に計画の策定について提案したこの計画は、持続可能な奥出雲町を創造するための、まちづくりの方向性を示す基本計画と位置づけ、今後は、この総合計画の下、過疎計画をはじめとする各種事業計画によるハード事業・ソフト事業を実施し、諸施策を一体的に推進します。

◆尾原ダム事業周辺整備

▲周辺整備が進む尾原ダム

尾原ダムは、堤体が完成し、周辺工事と各管理機器等の最終調整を行った後、三月末には工事が完了する予定です。

約半世紀にわたって進められたこの事業は、移転にご協力いただいた方々や周辺地域の皆様のご理解とご協力によるものであり、改めて感謝を申し上げます。

そして、周辺地域のより一層の活性化を図るため、佐白地区交流拠点施設整備予算を計上し、「さくらおろち湖」周辺に県が整備するボート施設、サイクリングコースと併せて一体的な利活用を図ります。

今後は、交流拠点施設の管理運営を予定するＮＰＯ法人「奥出雲布勢の郷」と協議を進め、住民の交流の場として、また地域振興の拠点施設として整備を進めます。

◆社会基盤・生活基盤整備

生活道路の整備は、継続実施している三沢山根線、川東下垣内（しもがいち）線などの改良整備のほか、新たに、下馬中条（げばなかじょう）線の整備に向けた調査を行います。

県事業では、引き続き早期完成に向けた要望を行い、要望の多い県関係の新規事業についても、その事業化を強く要請します。

また、住宅施策の新規事業として、木造住宅の耐震化を進めるため、耐震基準に満たない民間の建物を対象に、耐震診断や耐震改修などに対する助成制度を創設しました。

◆路線バス運行

奥出雲交通が町内全域で路線バスを運行していますが、利便性・効率性の高いバス路線を検討するため地域公共交通会議を昨年五月に設置しました。

会議での検討結果を踏まえて、新たに福原地区、蔵屋地区にバスを運行しますが、運行が難しい地域については、デマンド式の区域運行や自治会輸送活動等の新たな交通形態による支援も検討し、交通弱者対策を講じます。

▲町内を走る路線バス

◆公共交通

ＪＲ木次線の利用者は依然減少傾向にあり、引き続き木次線強化促進協議会を中心に、利用促進に努めます。

トロッコ列車の運行は、一昨年から「出雲の國・斐伊川サミット」の共同事業となり、広域的な観光列車に成長したことから人気が高まっており、

四月二日からの土・日曜日を中心とした五十日間にわたる出雲市駅からの運行により、出雲圏域の広域的な観光振興が図られるものと大きな期待を寄せています。

◆情報通信

▲テレビ電話による高齢者支援

テレビ電話を活用した高齢者支援に引き続き取り組むとともに、住民の皆様が円滑に地上デジタル放送へ移行できるよう、適切な情報提供を行います。

更に、携帯電話の通信エリア拡充につきましても継続的に実施し、来年度は樋ノ谷地区に鉄塔施設を整備します。

◆公営住宅

来年度は公社住宅も含めて、町で管理している五百二十六戸の全住宅を対象に「長寿命化計画」を策定します。

この計画では、今後の住宅需要を見据え、必要な修繕はもとより、除却も含めた公営住宅の再整備のあり方を検討していきます。併せて、交付金を活用した公社住宅の買い取りを進めます。

◆観光振興

先般松江市で開催した「たたらシンポジウム」でもその世界的価値について認識が高まった「たたら製鉄」、名勝及び天然記念物「鬼の舌震」に代表される恵まれた自然、そして歴史や文化を伝える記念館等多くの観光資源を奥出雲町は有しており、観光振興は、特に重要な施策です。

鬼の舌震整備は、「鬼舌振保存管理計画」をもとに、二十三年度事業として吊橋の工場製作及び現場での架設を予定しています。

また、平成二十四年の「古事記編纂千三百年」を迎えるにあたり、古事記・日本書紀・出雲風土記・万葉集などに描かれ、現代まで連綿と受け継がれてきた歴史・文化の魅力について、島根県を中心に市町村、民間団体等が一体となって広報宣伝や企画事業等を展開します。

本町もこの事業に積極的に参画し、船通山山頂休憩所、要害山交流拠点施設などの施設整備を行い、観光ルートの発掘等受け入れ体制を強化し、交流人口の拡大に取り組みます。

また、今年度からウェブサイトでの観光情報発信事業を始めており、奥出雲ブランドのＰＲとともにネットショップを活用した特産品の販売拡大を図ります。

さらに、昨年十月に景観法に基づく「景観行政団体」の指定を受けましたので、来年度は景観計画を策定し景観条例を制定します。

◆子育て支援

今年度から実施している第三子からの保育料と幼稚園給食費を無料にする「多子世帯保育料軽減施策」を拡充し、新たに第二子についても保育料を二分の一に軽減します。

また、多子世帯に属する幼児・児童・生徒全員の医療費無償化に加え、就学前０歳から六歳までの全ての乳幼児・幼児の医療費も無償化します。

そのほか、赤ちゃんの誕生をお祝いし、町内で使用できる商品券十万円分を贈呈する「出産祝金支給事業」を実施します。

また、不妊治療に対する助成制度を拡充し、助成額を引き上げて実施します。

幼児園化については、今年四月には布勢幼児園を開園し、横田保育所・幼稚園、八川幼稚園についても幼児園化に向け取り組みます。

今後は、現有施設の老朽化や地域の要望、地区別の子ども数など、将来を予測しながら整備に取り組みます。

▲４月から幼児園として開園（布勢）

◆医療・福祉

奥出雲病院では、今年四月に小児科と内科の常勤医師二人が着任されます。

医療従事者の不足により、医療を取り巻く環境は依然として厳しいですが、今後も島根大学医学部等への協力要請はもとより、地元出身医師への直接アプローチなど、引き続き医療スタッフの確保に努めます。

馬木地区の診療所整備については、早急な診療開始を目指します。

また、「安心して老いることのできる町」を目指して、来年度は、高齢者交通サポート事業の充実を図るほか、高齢者の皆さんが日常生活で不自由と感じている作業等の代行サービスを提供する仕組みづくりに取り組みます。

さらに、一人暮らし高齢者の皆さんが冬季間安心して暮らしていただくため、既存の公営住宅等を活用した生活ホーム運営事業等を実施します。

ハード面では、あいサンホームを二十床増床し、待機者の解消に努めます。

健康づくりにおいては、引き続き「健康づくり推進協議会」を中心に、きめ細かな健康づくり活動を続け、検診・保健活動の一層の充実を図るため、健康福祉課内に「健康づくり推進室」を設置します。